

令和 8 年度 第 1 回 江府町図書館協議会

日時:令和 8 年 5 月 28 日(木) 午前 10 時~11時30分

場所:愛ベルこうふ(江府町防災・情報センター)2 階 情報研修室

(会議出席者)

【委員】 10 名(欠席者 1 名)

会長:前川仁三夫 副会長:松田暢子

委員:加藤邦樹、木谷久美子、篠村知子、高橋真太郎、竹田真知子、橋谷久美、松本潤

【事務局】 7 名(欠席者 1 名)

教育課:田本丈一

図書館:(館長)宇田川恵理

(職員)梅林恵理、加持谷智子、徳田なつき、長岡圭子、道下三知子

(欠席)

【委員】 宇田毅

【事務局】 図書館:(職員)松本幸江

※委員、職員は五十音順

1 開会

(館長)第1回協議会を始めたい。資料 p1~6 は、江府町図書館協議会の根拠法令と、昨年度作成し今年度から施行する、江府町図書館協議会規則、傍聴要領、議事録作成及び公開要領をつけている。ここからの議事進行は会長にお願いする。

(会長)紹介されたように、昨年の議論から色々な規則が整った。協議会発足から10年ほど経ち、少しずつ図書館の体制がよくなってきたのではないか。委員が少し代わったので、簡単に自己紹介を。

(委員、一人ずつ自己紹介)

(会長)園長が変わり、新しく委員に加わった。今日は欠席だが、学園の教頭も新しい委員。よろしく願いしたい。

(事務局、一人ずつ自己紹介)

2 報告

○令和 7 年度図書館協議会協議内容について

(館長)まず、昨年度の図書館協議会での議事内容について、大まかに報告する。

(資料 p7 をもとに、p1~6を確認)

(会長)報告の後で質疑に入りたい。報告を進めてほしい。

○令和 7 年度江府町立図書館事業報告

(館長)では、資料 p10 から始める。

(資料 p10～18について報告)

(館長:図書館の現況、利用状況について報告)

(徳田:イベント、展示について報告)

(梅林:地域おこし協力隊の活動について報告)

(道下:利用実績の推移について報告)

○奥大山江府学園図書館活動報告

(長岡:ブナの森校舎の図書活動、状況を報告)

(加持谷:日野川校舎の図書活動、状況を報告)

(加持谷)資料に追加して報告する。特に4月は、6年生がブナの森から日野川に校舎が変わる時期。環境の変化などで学校図書館を離れてしまうこともあるようだ。この時期を大事にしたい。学校図書館の宣伝や展示、イベントを行う。

(会長)ここまで、質問などあれば。

(館長)今日、追加で資料を出した。鳥取県立図書館が作っている統計資料から、県内他館との比較ができるページをコピーしている。この資料についての意見なども受ける。

(会長)館長としては、他館と比べて何か思うことはあるか。

(館長)現在の資料費が250万円で、人口規模が同程度の館と比べると、もう少し図書費が増えたらと思うが、そこは財政との相談になる。この資料費でも貸出が伸ばせているのは、他館からの援助がある。特に、当館が県立図書館から借りている冊数は、県内他館と比較しても並外れて多い。貸してもらえから、展示や学校への資料支援、利用者からの要望に対応することもできる。県立図書館だけではなく、市町村立図書館からも借りており、ネットワークの力は当館にとって大変大きい。

(会長)貸出よりも借受が圧倒的に多いか。

(館長)当館から他館への貸出も、少しずつ伸びている。

(会長)みんな全部自分のところで揃えるという発想でなくても良いのでは。

(館長)ただ、県内他館との配送にも県立図書館のお金がかかっている。サービスとして維持できなくなってきたときに、単独でも頑張れる力は、ある程度はつけておかないといけないとは思っている。

(高橋)現状、県立図書館が配送をやめることはないが、コストが上がってきているので、そういうことはやはり考えておかなければ。それと、やはり図書館の魅力は、その場に本があり、新しいものと出会えるということがある。そこに本が並んでいることは大事。本棚に魅力があることで、うちの本も一緒に使われるのだと思う。

ひとつ伺いたい。開館日数も多く、イベント開催も多い中、職員の手が足りているのか心配する。生産年齢人口も減っていて、他の自治体でも図書館の働き手もなかなか集まらない時代。良いサービスを続けるためにきちんとした体制を、町として取るのが良いと思うが、どうか。

(館長)今年度、事情により職員の数が1名減っている。随時募集になっており、応募者があって、採用になれば1名補充される。

(会長)職員の話がでたが、会計年度任用職員が毎年試験をすることになっているのを聞いて驚いた。問題なく働いているなら継続するのが普通だと思っていた。何故なのか。

(加藤)採用のことはわからないが、見方を変えて、今回パートになった人もいる。図書館以外の職場でもパートが増えている。そういったところで、不都合な点はなかったかという振り返りを準備しておいては。次年度の採用試験もある。現場が回っているのかということも含め、当局にぶつけてもらいたい。協議会として何か要望を出すことはできないのか。

(会長)今の提案は、協議会として人員不足について何らかのコメント出してはという意見だが、会計年度職員でパートというのはどういうことか。

(館長)現在、パートは1名で、週5日勤務から4日になった。勤務日数が減ったので、連絡や報告が怠らないよう意識している。まだ2か月なので、顕著な影響は見えないが、現場は今までやっていた通りに回そうするので、無理が出ないように気を付けていきたい。

(会長)図書館職員の勤務条件はどうなっているのか。

(田本)フルタイムも、パートも、どちらも会計年度任用職員。図書館は、皆会計年度任用職員で、雇用期間は1年。

(会長)毎年採用試験を受けるということか。司書は専門職員なのでキャリアを積み上げていくべきと思うが。

(松本)1名減った状況で以前のままのクオリティを維持するのは難しくなってくるのではないか。無理をしてやるというのが心配。また、仮に今の状況を乗り切ってしまうと、人が減っても回ったという結果を出してしまうので、そう思われてしまうのは避けた方がいいのでは。また、図書館が独自性を出していこうとすると、新しい風も必要かなと思うので、多少人が入れ替わるのは致し方ないことかと思う。人が変わるのがいいということではないが、また新たな取り組みができて良いのではないか。

(副会長)日野町図書館は複合施設で、文化センター兼務で4名で、1名は正職員。私がいた頃は、会計年度の職員は5年ごとに面接試験があり、毎年、継続の意向調査もあった。

今のところ職員が1名減ということで、同じようにサービスを維持するのは大変だと思う。大事なのは、職員が毎日笑顔で仕事ができることなので、無理しないようにやっていただきたい。これだけ利用が伸びているということは、町民に支持されているということなので、相互貸借にしてもどんどん広報し、図書館の味方を増やし、職員を減らさないようにしていくのが良いと思う。また、やはり協議会の意見として、要望を言っていた方が良いと思う。

(会長)最後にまとめられたら良いかと思うが、会計年度職員の制度を議論する場ではないという事は確認しておきたい。

(松本)雇用については、どの企業や会社でも同じ。致し方がないことではないか。

(竹田)何年もやってきて働き続けたかったが、試験を受けたところ落とされてしまったということはあったと聞いている。今までずっと働いてきた人を切って、新しい人を入れようと思うのは、何が目的なのか、江府町として何がしたいのか疑問に思ったことはある。

(会長)働いている人は大事にしてほしいと伝えたい。雇用者側の都合があり、我々が口を出すことではないかもしれないが、感じたことは発言していかなければ。以前は1人だったところから、ここまで増えたのは凄いこと。発言することは大事。

(加藤)前図書館長として、1点だけ。職員が3人だった頃を知っている。ここまで増えた経過に、この協議会の発言は非常に大きかった。11月には、来年度予算編成が始まる。必要な人数分の給与を確保するには、協議会から必要であると声を上げること、今回の図書館資料の数字を上へ届けること。図書館の頑張りを事務方が汲み取って、上に掛け合うことを是非お願いしたい。

(会長)では、なんとか早くもう1名補充してもらい、今の活動を継続してもらうよう協議会としてお願いするということでしょうか。

(道下)働いていて気になっているが、少し空いた時間にできていた棚の掃除などが、手が回らなくなっている。人が足りないことを、小さなことから感じている。

(会長)細かいことは、すぐには目に見えない。そういう声も届けていけないといけない。今までの報告についての質問など、あれば。

(橋谷)昨年始めた宅配サービスの現況を教えてほしい。

(道下)現在、3名の登録。積極的に利用しているのが1名。最近登録した1名は、1回貸し出した後、次へ繋がっていない。ただ、よく図書館を利用していた人なので、何かあれば気軽に電話があるだろうという期待がある。

(橋谷)高齢者か。

(道下)高齢者で、免許を返納して交通手段がなくなった人。

(館長)あと1名、今はバスで来館する利用者に、宅配サービスがあることを伝えている。出かけにくい冬に利用するかもしれないという反応。今の利用者に声をかけ、宅配サービスの利用へ繋げていきたい。

(橋谷)来館して、自分で本を見て選び、届けてもらうということは可能か。バスで持って帰り、バス停から自宅まで本を運ぶのも大変だろうと思うので、そういうサービスもあれば利用が広がるのでは。

(道下)なるほど。是非実現したい。

(橋谷)高齢になってから本を読み始めるのは難しい。今の利用者が本から離れないことを、どうやって支援していくのが大事だと思う。

(会長)少しずつ利用が広がるように思う。継続してもらいたい。奥にクッションのあるスペースができた。のんびりできる空間は良い。

(徳田)クッションを置いたことで、子どもたちがくつろぎながら本を読む姿が増えた。ブラリースペースは、年齢問わず利用可能。ぜひご利用いただきたい。

3 協議

○令和8年度江府町立図書館事業計画について

(館長:資料 p19について説明。)

(館長)2階スペースは、休日の昼間は静かなので、高校生以上から30歳までの利用の少ない層に、活動の場所として認知してもらえるようにしていきたい。中年や高齢者は、いずれ車に乗らなくなり来館しづらくなる。音声資料や宅配サービスで支えていきたい。サービスの周知を努力する。予算書、決算書、議会議事録を資料として閲覧できる状態にしている。今後も続けていく。住民とどのようにつながるのか考えていきたい。展示、イベントなどお互い

の情報をやり取りして開催できたら。図書館ボランティアの導入も検討している。ボランティア保険をかけ、図書館まつりでのテント設営など、行事への協力をお願いすることを考えている。

(副会長)ボードゲームと絵本の会と、どのように一緒にイベント開催しているのか。ボードゲームは図書館で買ったものか。

(道下)地域おこし協力隊の活動費で買ったもの。普段はバス待ちの小学生が主に使用している。買ったものの他、家で使わないものを貰ったものもある。先日貰ったけん玉が、今とても人気。

(副会長)図書館のあり方が変わってきている。本を借りるだけでなく、一緒に遊べるコーナーも必要になると思う。しかし、やはり図書館では本を読みたいという人もいる。場所を分けるなど配慮も要るだろう。遊びに来た子どもをどうやって本と結びつけるかという工夫も必要だと思う。また、今年度は県立図書館との協力イベントはないのか。

(館長)県立図書館が共催希望を受け付けている。その中から、高齢者向けのスマホや情報収集に関する講座に希望を出した。

(高橋)講座ではないが、明日も県立図書館の職員が2名、来町予定。一緒に役場で図書館をPRする予定。県立図書館から提案するだけでなく、江府町立図書館からも声を掛けてもらったことで実施することになった。

(館長)明日、県立図書館の協力を得て、大規模な出前図書館を予定している。様々なテーマで本を並べ、図書館でできることをPRできる場として考えている。県立図書館の協力のもと、レファレンスにも応える。

(会長)住民がちょっと困っている部分に目を向けて、図書館の仕事をしようとしている。住民のニーズを引き出すことは大事。よく頑張っていると思う。

○江府町立図書館のあり方について

(会長)他館を見て良いと思ったことなど、順に話してもらいたい。

(篠村)今日の資料を見ての感想だが、10代、中高生の貸出が圧倒的に少ない。10年前はそうでもなかったが、10代が減り、40代、50代が増えている。やはりSNS等に流れているのではと感じられた。ボードゲームで遊びに来た子や、違うきっかけで図書館に来た子をどう本に結び付けるか、考えていけたら良いと思う。読み聞かせボランティアとしても、小さい頃に読んでもらった本が、いつか本を読みたい気持ちが浮かぶことに繋がるのではと思いながら頑張っていきたい。

(竹田)カウンターの人に声を掛けやすい雰囲気はとても良いと思う。別の図書館では、カウンターの人に声を掛けるのは結構勇気がいる。用が無くても話しかけられる雰囲気が好きなので、ぜひ続けてほしい。ここからは、思い付きの話で。自分が子どもの頃「ちろる文庫」というのがあって、その活動のひとつに、「回覧文庫」というものがあった。バスケットに入った本が家に届き、読みたい本を取って次の家に回す。重くて大変だったが、届くと借りる気分になった。今同じことをやるのは難しいだろうが、先ほどの宅配サービスや、出かける役場とあわせて、「ミニミニ出前図書館」のようなことができれば面白いと思う。

(松本)図書館の建て替えを希望する。近隣の図書館の綺麗な施設を見ると、機能的で働

く側にも利用する側にも良い環境だと感じる。先程のボードゲームにしても、相反するものを置いているので、住み分けをするためにも、施設の強化を実現してほしい。

(高橋)移住、定住の魅力として図書館を知ってもらえたらいい。ローカルを大事にしている図書館なので、移住者の活動する場所とか、地域と交流する場として図書館があることを伝えると良い。もう1つ、他の自治体でも外国人が増えていて、学校とか働いている人のために本を借りたいという人もいる。外国人も参加できたり、交流できるような場所になれば良い。他にも、ネット情報の真偽を見分けるのに、図書館がこれまで資料相談に応じてきた経験が生かせるのではと思っている。

(館長)外国人の利用について、町内の高齢者施設で、インドネシア人が7名働かれています、更に2名増えるとも聞いている。先日、日本語学習のために来館された。何名か利用登録され、日本語学習のための本を貸出した。これからも図書館を使ってほしい。

(橋谷)図書館で本に繋がっていくというのがとても大事だと思う。自分が子どもの頃は「母子の20分間読書」という取り組みがあった。この時間のおかげで本が大好きになった子もいた。小さい時から何らかの形で本に親しむことで、10代の貸出も増えていくと思うので、そういう機会を提供できる図書館であればと思う。

(加藤)移動図書館車は古くなり廃止したが、いろいろな出前図書館を考えていくのは良い。出掛ける役場を使うのも、良いアイデア。予算の話もあったが、250万円では足りないのか。

(館長)近年、本の単価が上がっている。文庫本が1,000円を超えており、高価な本はなかなか買えない。本当は持っていたら役に立つというような本も、値段によっては購入を見合わせているような状況。

(木谷)保育園では、保護者向けの本を図書館から置いてもらって、自由に借りられるようにしている。子育てで忙しい20代、30代が、お迎えのときに、ちょっと読んでみようかなという機会に成っていると思うので、引き続きお願いしたい。

(副会長)いろいろな展示をすると、今まで来られていない人が来られて、図書館を知ってもらうことができるが、来られたその人を知るというのも大事。日野町図書館で、移動販売車と一緒に地域を回ったことがあるが、会って話してみると、図書館のことが知られていないし、遠慮している人は多い。借り方や簡単な返し方を準備して伝えることと、図書館にいろいろな本があることを伝えるのは大事。

(会長)カウンターで話しやすいとのこと、確かによく喋っている人を見かける。嬉しそうに話しているようだ。SNSが広がっていく中で、10代の若い人をどう本に結び付けるか。情報をどのように手に入れるか。電子書籍もあれば、紙媒体もある。AIを頼るより先に、まずは周りの人に相談することもできる。困っている人に目を向けることをベースにしていけば、いい図書館、いい地域になっていく。これらを意識しながら、協議会も進めていきたい。

(閉会)